



技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター春季号<第27号>(平成8年3月15日発行)

◇巻頭言

21世紀の科学展望と育って欲しい日本人の姿

矢野 友厚(副支部長・福岡・建設)

未広がりの数値で縁起のよい平成8年の新年を迎える若田光一さんの宇宙旅行エンデバー号の大成功を皮切りに、5月には5人目の日本人宇宙旅行飛行士候補も決まり、夏にはH-IIロケット4号機で日米両国が共同開発した地球観測プラットフォーム技術衛星ADEOSの打ち上げが予定されている。正に宇宙関係の話題の多い年となったようである。

また、他の分野では、12月に放射線医学研究所の重粒子線癌治療施設が完成し、癌への進んだ対応が展開されることになる。

そこで、今世紀のしめくくりと、来たる21世紀を担う科学技術のターゲットは如何に展開されるであろうか。

三菱総研牧野相談役や青山学院菊池教授はこう語っている「今世紀の残り数年は、いろいろな技術体系を統合していく、新世紀に入れば情報通信、バイオ、新物質の三つが押さえ所となろう」

また一方、目を世界に転ずれば、日本の技術で本当に米国より先行している分野は何か、更に日本が21世紀に生き残るためにどの分野で強力に推進すべきか?

この答の一つとして東京大学鈴木教授は「日本の生き残りの道は只一つ、海の資源を有効に利用するしかない」と主張されており、海はまさに人類未開拓領域の一つとして量り知れない意義を有するそうである。

さて一方では科学技術の進歩によって今までいくつもの矛盾が生じた、これにはどう対処したらよいか。東京工大鈴木教授は「その矛盾もまた科学技術によって解決して行かなければならぬ。科学技術というのは人間の欲望そのものであるから解決もまた同じルールに従うことになる。したがって、材料も製造過程で害が出ないこと、そして使用後も再利用できることが求められる。即ち原点に戻らなければものを作ったとは言えない。環境とは一つの切断面でなくこれからはそれがすべて」と論破されている。同じ意見として、東京大学吉川教授は「これから人工物工学を更に具体化していくに当り、まず一般設計学をもっと拡張し、物を作る設計だけでなく自己修復機能を備えて、持続と破壊・廃棄するまでを“設計”と考えたいと思う。そのような設計行為を自動的に行えるようなインテリジェントCADを考案したい」と力説されている。

そのような領域に達するにはどうあるべきか、突然成功などは夢でしかない。10年前宇宙船打ち上げ失敗で幾多の人が大空で散華したように失敗は成功の元である。最近の“もんじゅ”的失敗もこれを乗り越えて新しい成功が得られると思う。

また、一時話題をさらった新物質超電導材も世界で何千人の人達が取り組んでいるがこの技術は交通・情報・エネルギーという社会の根底に係わるものであり、本当に室温超電導が実用化されれば人類は石油文明に代わる超電導文明を築くことになろう。

その前に情報過多で脆くなった日本人は、失敗にもめげず、骨太の未完成の人間に育って欲しいと心から願って止まない。

1人でも多くの入会をお勧め下さい

† 私の提言

日本技術士会九州支部でプロジェクトチームを組みコンサルタント業務をやってみませんか。

川里野 宏平 (大分・農業)

学生時代に園芸学を専攻したわたしの友人が、先日話すのには「おい、君は技術士と云うちよるが・・・時々新聞広告も見るんじゃがのお・・・聞くところによると、あれはあんまりゼニ(錢)にならんち云うじゃねえか。儲からんこつするな。巣もつくれんこっちあ」と大分弁で話しかけて来た。

私はしばらく考えて、「うーん、そうじゃのお、儲かることもあれば、儲からることもあるし、人生いろいろじゃあ」と答えて、その会話は終わった。

後で考えてみると、彼は農業部門技術士の誰れかに話を聞いて、技術士と云っても、向うから仕事が転がりこんで来るわけでもないし、収入もそんなに多いわけでもない。資格試験の難しいわりには、仕事は少ないよ・・・と云った意味の話を聞いたのではないかと私なりに推論しているところである。

彼の云った短い言葉の中には、我々技術士が反省し、努力すべき点が、幾つかあるのではないだろうかと私は考える。

その一つは、

19部門の技術士の中で、建設部門の技術士は建設コンサルタント登録にあたり優遇措置がとられており、また企業内に於いても、それなりに優遇されていると聞いている。安心して働ける技術士の職場が確保されていると考えてよいのではなかろうか。

残りの18部門の技術士は必ずしも優遇された状況にはないのではないかと考え、については建設部門同様に、安心して働ける職場の確保に、日本技術士会員は全力を挙げて努力する必要があると思う。目的を達成すれば会員は自ずから増加しましょうし、技術士の自己

ノ研鑽にもつながることだろうと考える。

その二つは、

日本技術士会九州支部内にプロジェクトチームを設置して、コンサルタント業務を実施しては如何かという提言である。

コンサルタント業務を実施する場合、ネックになるのが、窓口になる技術士を常時確保できるかどうかである。地方公共団体や中小企業からの受注に当り、発注内容をきちんと、とらえてそれをプロジェクトチームのメンバーに連絡・処理する技術士を確保することがポイントかと思う。窓口になる技術士には、きちんと給料を支払い事務局に常駐していくことになるが、このことは現在の九州支部の実力から見ると不可能なことではないと思う。

これが実現すれば電気、機械、化学、農業、林業、・・・等々各部門の技術士の活動する場所が増大し、技術士活動が活性化すると考えられる。

調査、設計、施工監理業務は、現在非常に増大している中で、技術士等専門技術者によるプロジェクトチームが要求されていることを知っていただきたい。

大分県技術士会は、大分県工業団体連合会に加入しており、年間を通じて役員会等に出席しているが、その会場で技術指導してもらえるプロジェクトチームが欲しいと云った声をよく聞くので、その度に技術士によるプロジェクトチームがあればよいのにと思うこと度々である。

以上、日頃考えている2点を提言しながら、技術士会員の益々のご健勝とご多幸を心からお祈りする次第である。

日本技術士会近況

原井 東男 (理事)

◎平成7年度第5回 理事会報告

日時 平成8年1月17日(水)12:30~16:00
場所 (社)日本技術士会会議室

○審議事項

- 講演会・見学会開催補助費配分基準について

《平成8年度は下記基準で配分する。会員数はH7.3.31現在。部会会員数は支部会員数を除く。配分方法は次の通り。

Aクラス	700人以上	60万
Bクラス	550人~699人	50万
Cクラス	400人~549人	40万
Dクラス	300人~399人	30万
Eクラス	200人~299人	20万
Fクラス	100人~199人	10万
Gクラス	50人~99人	8万
Hクラス	49人以下	5万

九州支部は265人であるため20万。
H7年度より10万増となる。》

- 平成8年度事業計画・収支予算(案)について

《臨時総会へ向けての事前審議である。

◇ 基本方針は

- 第一 技術士制度の普及促進
- 第二 技術士の研修研鑽
- 第三 技術士の積極的利用の推進

主たる項目を列挙すると

- ①技術士業務の開発
- ②海外業務開発
- ③技術士業務の斡旋
- ④相互交流
- ⑤普及啓発
- ⑥報酬資料の作成
- ⑦涉外

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

行事・会合などの報告

◎第2回常任理事会

総務委員長 重富秀雄

- ・日 時 平成8年1月20日
- ・出席者 水上支部長、青山・矢野副支部長
川崎・新城副会長、原井理事
- ・議事要旨

◇ 本部理事会報告

原井理事より1月17日に行われた本部理事会の概要が報告された。(内容は“技術士参照”)

◇ 支部長会議報告

(次ページにつづく)

(支部・センター行事報告つづき)

水上支部長から平成7年11月17日に開催された支部長会議について報告があった。

◇ 賛助会員、賛助広告募集について
去る1月16日、建設コンサルタント協会九州支部幹部と技術士会役員（福岡在住）との懇談会を実施、関連企業への賛助会員への入会を要請した。

◇ 政策委員会の設置について
支部長より提案があり、今後の“組織拡大等の重要事項について協議する委員会を設置することになった。

◇ 企業内技術士の設置について
企業内の技術士が相互に連絡を密にす

る委員会を設置することになった。

◇ 育成委員会のあり方について
センターの川崎副会長から、平成7年度の事業内容についての報告があった後、育成委員会の運営について協議する委員会のメンバー構成の提案があり、各地区の代表幹事とも相談し選任をすすめることになった。

◇ 今後の支部・センターの主なスケジュール

4月26日 合同役員会
5月24日 総会
6月21日 合同役員会
7月中旬 中・四国支部との合同研修会（北九州の予定）



行事レポート



会員研修会及び合格祝賀会

田中 穣二（福岡・経営工学）

ノるべき問題であることを示唆された。

◇ 北前船、対馬海流を辿りて

元陸上自衛隊一佐 中島 豪先生

古希を機に、北前船の航路（対馬海流）までを逆行し、北海道の宗谷岬より石垣島までを総歩行距離5,217km、147日間で踏破した記録について述べられた。計画達成のためには、体力の涵養を含めての周到な準備と機に応じての適切な判断が必要なことを強調された。

◇ 平成7年度技術士試験合格者歓迎会

17:00～19:00まで、新人技術士の紹介、並びに歓迎祝賀会が100余名の参加者で開催された。



行事レポート



第2部会主催 技術研修講習会

棚町 修一（福岡・建設）

川崎先生の講演では、建設省関門国道工事事務所で担当された関門トンネル工事にまつわる技術的な対応や立坑崩壊事故などの経験を通して、設計と現場のズレのチェックの必要性を痛感された貴重なお話しと、三太郎工事事務所（現 八代工事事務所）で担当された三太郎峠（国道3号線での最大の難所、八代市と水俣市との間にある峻険な山岳地帯にある三つの峠の総称）での工事での岩盤への取り組みへの苦労話をお伺いすることができた。（次のページにつづく）

日時 平成8年3月2日（土）15:00～18:00

場所 福岡商工会議所

内容 1. 講演会

①「私の技術経歴について」

川崎 迪一先生

日本工営（株）福岡支店 顧問

②「阪神・淡路大震災と

防災体制の強化」

肥田木 修先生

九州地方建設局長

（前建設省防災課長）

(支部・センター行事報告のつづき)

肥田木先生の講演では、まず、阪神・淡路大震災時の防災課長として現場を視察されたときの生々しい状況をスライドを通してご説明いただいた。この説明の中で、建物のピロティ部分の崩壊の多さ、信じられないような橋脚や橋の床版の破壊の様子に改めて震災の被害のすさまじさを感じた。

つづいて、阪神・淡路大震災の教訓、今後の防災体制のあり方、耐震設計基準に関する検

討の現状、土木学会でまとめられた土木構造物の耐震基準等に関する「第二次提言」の要約についてのお話を聞くことができた。

最後に、現地を自分の目で見ることが大切であることと、技術者は現地にあった状況に一品一品者をつくることが大切であることをお話をいただいた。

講演の後の懇親会では、お二人の先生を囲み和やかな雰囲気の中、話題に花が咲いた。

お誘い 「YCE福岡」にあなたも参加してみませんか！

1. 会の名称：YCE福岡
(Young Consulting Engineers福岡)

2. 会の目的

人間と人間が出会って、それぞれ得意の分野について「知恵」を出し合うことによって、まったく予想もしなかったすばらしい「ひらめき」が生まれる「人間交流」を目的とする。

生まれた「ひらめき」は個人として活用するとともに、仲間同士が「はげましあって」お互いに、地域社会に貢献する。

3. 会員の構成

昭和20年代以降生まれの、(社)日本技術士会会員または九州地方技術士センター会員のうち福岡地区に勤務または在住する技術士。(現在、福岡地区以外の方にも参加を呼びかけております)

4. 定例会 開催頻度：1回／2ヶ月

☆次回のYCE福岡(第23回)定例会は

◇日時 4月23日(水) 18:30~21:00
◇場所 サザンクロスビル(3F,A-2ホール)
福岡市中央区天神2-6-35
TEL 092-732-9111
◇会費 3,000円(弁当と少量のビール)
◇内容 18:30~19:00: 1分間スピーチ
19:00~19:15: ノウフウ
(お一人の方自己紹介)
19:30~20:00: 協議事項(持ち寄り議論、
お説明コーナー、本紹介等)
20:00~20:30: ホットな情報(技術編)
20:30~21:00: ミーティング
21:00~ : ノミニケーション

※連絡先 真鍋和義 TEL 092-541-2231
(福岡市衛生局南保健所衛生課)

平成7年度技術士第一次試験合格者

平成7年12月21日発表

機 械	永岩広幸	建 設	徳松隆司	応用理学	衛藤政浩	環 境	森山大吾
船 舶	後藤浩二	"	佐田英一郎	"	高津茂樹	福岡試験場	34名
航空宇宙	末竹秀暢	"	宮原幸浩	環 境	出口俊弘	平成6年度)	(52名)
電気電子	今村 浩	"	山崎晴彦				
"	松永仁紀	"	一ノ瀬修				
建 設	岩佐修二	"	吉村継彦				
"	田兼秀春	"	堂上和彦				
"	田中敬太郎	"	堀 康雄				
"	栗川 明	"	中村善郎				
"	碇山博久	"	山口昌昭				
"	指方由紀	農 業	江嶋俊史				
"	中島克人	"	竹田大悟				
"	中村 豪	経営工学	濱田裕司				
"	池田高則	情報工学	田口紀子				
"	城 重明	応用理学	浅地伸威				

前年度との比較

区分	年度	7年度	前年度
受験申込者数	6,229名	4,978名	
受験者数	4,087名	3,350名	
合格者数	678名	707名	
申込者数に対する合格率	10.8%	14.2%	
受験者数に対する合格率	16.5%	21.1%	

平成7年度技術士第二次試験筆記試験合格者

平成8年2月2日発表

機 械		高橋孝誠 古賀良知 阿部隆一 秦野 徹 岸川直人 千葉規胤 小野哲男 小池勝也 田代明敏 中田陽道 篠崎武樹 田越宏孝 古川智彦 吉良信輝 黒川陽一 石井賢治 中尾好幸 永嶋洋政 佐藤光雄	建 設	山田益司 平野 巖 廣中宏毅 野本克己 谷川一智 石塚健一 油野邦弘 手嶋和男 伊澤 亮 堀口 潔 秋月敏政 角 和夫 山下 篤 今林顯二 河野敏郎 坂口信夫 安恒万記 児玉隆昌 松尾眞治	/ 建 設	佐々木實 木津博幸 亮田信河 末廣孝義 森田昭廣 川上義幸 桑原洋一 山本祐司 宮崎正和 太田達雄 松浦元哉 福山俊夫 吉田 靖 安部義美 香月龍幸 浅田 透 野口文雄 溝辺 哲 前川文誓	建 設	馬越 哲 坂田道則 釜下英巳 甲斐良徳 中禮清孝 森山隆徳 岩屋信一郎 右田隆雄 竹上哲夫 立石亮祐 兼武征一郎 末長晃一 石橋佳三 高原茂樹 瀬戸口忠臣 田中 充 中野剛一 齊田 謹 勝山 修
化 学								
資源工学								
建 設								
建 設		水田富久 菅原信二 田中秀明 夏秋政則 中村 稔 川原伸孝 森 弘光 本山彰彦 浅利公博 山本浩史 寺田彰憲 大和敏郎 吉田直紹 鶴岡達夫 大矢隆二 村上 健 井上貴義 田中昭二 松崎 明 入江睦生 鳥井秀章 勇 秀忠 梅田清春 神崎 潔 太田順一郎 高倉和彥 森 茂毅	建 設	岩本政志 中山義彦 宮本好英 瀬知昭彦 高橋宏之 富永英治 坂田隆博 土井 候 田村博美 小野 透 西村和一朗 高瀬和博 是枝伸和 田中克則 小川正則 岩橋英夫 藤野恭裕 渡辺康之 瓜生 滋 古橋裕二 山下 まれ 大櫃宣弘 金谷利憲 中島敏文 清水 清 川村 靖 田中興基	/ 農 業	上尾清光 正岡幸雄 長嶋秀昭 菊池秀城 溝口昌廣 花木幸雄 福田光博 木村麟太郎 小柳文人 城島義秀 池上泰俊 佐藤 隆 林業二見鍊次郎	林 業	福重治雄 浦島和衛 栗山 隆 国平好明 古賀芳郎 林 信雄 野村眞二 鶴田洋行 湯原浩三 松永雄二 林 秀樹 原千砂子 福岡会場 155名 (平成 6 年度 134名)
水 道								
衛生工学								
農 業								
前年度との比較								
区分		年度		7 年度		前年度		
受験 申込 者 数		23,326名		21,308名				
筆記試験受験者数		13,401名		12,637名				
筆記試験合格者数		2,270名		2,224名				
口頭試験受験者数		2,268名		2,223名				
口頭試験合格者数		2,074名		2,006名				
申込者数に対 する合格率		8.9%		9.4%				
受験者数に対 する合格率		15.5%		15.9%				

前年度との比較

区分	年度	7年度	前年度
受験申込者数	23,326名	21,308名	
筆記試験受験者数	13,401名	12,637名	
筆記試験合格者数	2,270名	2,224名	
口頭試験受験者数	2,268名	2,223名	
口頭試験合格者数	2,074名	2,006名	
申込者数に対する合格率	8.9%	9.4%	
受験者数に対する合格率	15.5%	15.9%	

声の広場 地区活性化だより-17 長崎地区の活性化について

城石 高彌（長崎・代表幹事・建設）

長崎県技術士会は、九州支部および九州地方技術士センターと同じ時期に発足しているので、すでに30年を経過していますが、会員数や予算の関係で現在まで専属の事務局を置くまでには至っておりません。

専属の事務局を置くことができるのは他の地区も同じではないかと思いますが、長崎でも組織率が低いのが大きく影響しています。

県技術士会として組織率をあげるための会員増強を、担当を決めて積極的に行ったかどうか、また技術士を世の人々に知りたいだからための努力を十分に行ったかどうか反省する点も多々あります。

昨年は「第8回九州地域の官公庁職員と技術士との合同セミナー」を長崎県技術士会が担当して開催しましたので、長崎県技術士会としては技術士活動のPRには大変役立ちました。

さて、県技術士会として平成8年度は過去の反省を踏まえて、地区の活性化について下記の4項目に力点をおいて取り組みたいと考えています。

- (1) 県内技術士の入会者および未入会者の名簿を作成して、未入会者の入会を勧誘して会員増強を進める。特に平成7年度技術士第2次試験合格者が8名おられるので、この方々に先ず県技術士会への入会を勧説する。
- (2) 県会員名簿を官公庁に配布してPRに努める。更に県内の主な企業にも会員名簿を配布すると共に、技術士業務の理解と啓蒙を行う。
- (3) 県内で実施される学会や講演会・研修会にも積極的に協賛・後援を行い、技術士の社会的地位向上発展を目指す。
- (4) 技術士の活動状況についてマスコミの利用を図る。

以上



第6部会・他部会との合同見学会（平成7年度第1回）

芳賀 三千億（第6部会長・長崎・経営工学）

日 時：平成7年11月28日、13時30分～15時
見学先：昭和鉄工（株）宇美工場。

参加者：9名（下表）

JRの香椎線、宇美駅に集合した各部会からの参加者9名が、小春日和のポカポカとした暖かい日射しを受けながら、徒歩で10分位の距離にある早見工業団地の小高い丘に位する昭和鉄工（株）宇美工場を訪問した。

当社は、明治16年に創業、暖房給湯用ボイラーの老舗である。爾来、「暖房」から「空調」へと業容を拡大し、さらに現在では、都市景観事業および環境機器事業へと、製品の多角化を図っている。当社の主力である宇美工場は、空調機器および環境機器（循環湯浴器など）を製造している。

見学のポイントは、新生産方式（当社では、

昭和生産方式「SPS」と命名している）である。見学に先立ち、山本生産調整室長さんより、ビデオを使いながらのSPSの概略の説明があった。SPSの思想は、従来の経営のあり方を根本的に見直し、まさに“逆転の発想”で“超効率化経営”を行なおうとするもので、この方式の導入により短期間のうちに業容の拡大と利益の改善につながった由。

工場内を見学中、ファンコイルユニット部品の製造現場でSPSの一手法である“多工程待ち”（1人の作業者がタクトタイムに見合った分だけ複数工程作業をすること）の作業状況を観察することができた。

見学終了後、河辺常務、山本室長の両氏と見学者との間で、熱のこもった質疑応答が交わされ、実りのある見学会を終了した。

地区	部門	氏名	地区	部門	氏名
福岡	建設	水上 信照	北九州	応用理学	江畠 賢一
〃	経営工学	田中 積治	〃	経営工学	柴田 秀夫
〃	〃	山村 勝美	〃	および機械	
〃	電気・電子	町田 貞徳	〃	機 械	角田 正治
〃	事務局	古賀 豊吉	長崎	経営工学	芳賀三千億

第2部会技術研修会(第2回)報告

北原 徳雄(第3部会長・北九州・化学)

平成8年1月27日、14時より博多第一ホテルで、7名の方に参加して頂き技術研修会を開催した。

議題は次の通り。

1. 材料屋がみたバルブについて
金属部門 本田 整氏
2. 第3部会の今後の行事予定について

会の終了後、当ホテルの民芸居酒屋“博多路”で新年宴会を行った。

1項の研修の概要は次の通りである。

玉型弁、逆止弁、安全弁、仕切弁等のバルブに関する、その構造と材料についてASME N 47に基づく許容応力と材料評価等の詳細な説明があった。次に本田先生の永年にわたるバルブ材料の研究開発が成功し、所属企業の目玉商品となっている高温高圧バルブ用材料の改良9Cr鋼に関して、情熱を傾けたご講演は聴講者を釘づけにし、質問の嵐を呼び活気溢る研修会となった。

さて、この機能性材料の改良9Cr鋼は9Cr 1Mo鋼をベースにして、これに或る種の微量元素を添加することで、高温での強度を飛躍的に引き上げることを可能にした鋼種である。この改良9Cr鋼でつくられたバルブを、超々臨界圧(566/593°C, 250kg/cm²)のかかる火力発電プラントに使用した場合、弁のコンパクト化に優れた効果が認められた。火力発電プラントの蒸気条件は、熱効率を更に向上させるため、一層の高温高圧化が計られる予定であり、バルブもこれに対応して改良9Cr鋼より更に高温高強度の材料開発が必要になっているとのことである。

2項に関しては、協議の結果、今年度に予定している工場見学会を第6部会に合流させて頂き、平成8年3月15日(金)、北九州市の西日本製糖と、サッポロビールの見学をさせて頂くよう、事務局へお願いした。

なお平成8年度の行事計画は今年度と同じく研修会2回、工場見学会1回を予定することに致しました。
以上

第1部会平成7年度第2回技術研修会報告

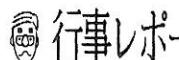
山谷 三郎(第一部会長・福岡・機械)

平成8年2月10日(土)、13時30分より17時まで、博多第一ホテル会議室にて、第一部会平成7年度第2回技術研修会を開催しました。当時は大寒波来襲し、各地で積雪を見る中を、17名の参加者を得て開催することができましたことは、ひとえに幹事諸先生のお世話と、参加者先生方の熱意によるものと感謝申し上げます。

研修会議題内容の第1は、「日本・韓国・中国の造船業について」13:30~15:00、技術士(船舶)工博の武田秀雄先生でした。その要点は、日本造船業界の従来からの強みは、(1)活力ある経営…タイムリーな対応、思い切った改革実践。(2)コスト低減、技術競争力へ挑戦。(3)恵まれたハイテク利用技術。(4)優秀な労働力。(5)世界一の関連工業。等でありました。現状情勢としては、隣国韓国造船業の寮・質・価格面に亘る追い上げが進んでいることでした。中でも賃金レベルが日本に

較べ未だ低い上に、若い優秀な労働力の確保が造船業界として可能のこととは、注目に値することでした。対して日本では、高齢化が進んでいることです。従って日本造船業の生き残る為の課題は、一層のハイテク化、自動化の推進にあると言えそうです。

2番目講演は、「空気軸受を用いたモータ技術」について15:00~16:45、安川電機株所屬技術士(機械)末松正典先生でした。空気軸受けを主体として、関連のある磁気軸受、それを利用したリニアモータについて、従来のころがり軸受(ボールベアリング)に替わる今後の軸受と、機械装置移動方式の解説でした。理論的、実験的解析とその長所・短所についての比較論の最新技術を、先生自らの研究論文発表を通じてのご発表であり、価値評価の高いものでした。以上両先生のご発表に感謝し、部会終了後、地下会場にて懇親会を和やかな雰囲気にて持ちました。



行事レポート ◇ 会員研修会および忘年パーティについて

小松 栄一（北九州・経営工学）

平成7年12月9日(土)、福岡市博多パークホテルにおいて、会員研修会および忘年パーティが開催された。参加者62名。

☆会員研修会（14:00～17:00）

(1) 近世における

西洋と日本の衛生（水道）事情

講師 北九州地区 竹内 良治 先生
(衛生工学・水道・建設部門)

まず、「日本人は自国の歴史を“野蛮で恥すべきもの”と悪いように、また世界史を“西洋のフィルター”をとおして教えられた」ということから話しあり、徳川幕府の治山治水などは当時の諸外国に比べ立派なものだということ。17世紀の日本は金、銅、鉄等の生産国としても優れていたということ。また、糞尿処理、入浴の風習など西欧に誇れるものが沢山あったということである。

以上が博学の講師に聞いた概要である。非常に興味深いものであった。

(2) 烧酎残留残渣廃液処理について

講師 宮崎・農業部門 山下 実 先生
有名な雲海酒造株式会社で環境技術開発を担当されている講師は、1990年のロンドン条約によって、今までの海洋投棄が禁止されようとしている時、全国的焼酎の生産地（85%）九州のリーダー企業としての研究の成果を、豊富な資料によってコスト計算までを含めて分かりやすく説明された。焼酎党を自認する一人として、大層勉強になりました。

以上のお二方のご講演は、いずれも多くの示唆に富む貴重なお話で、特に異なった分野の技術士にとって誠に有益な内容であった。

☆忘年パーティ（17:00～19:00）

恒例のパーティが青山副会長の開会の辞によって始められ、カラオケや技術士会の歌などで盛り上がり、酒を飲み乍ら楽しい懇親のひとときを過ごし、矢野副会長の閉会の辞で、名残を惜しみつつ散会した。以上





水の旅(1)

竹内 良治（北九州、衛生工学・水道・建設）

1. わさびまで

1) 緒

水道局の職員がわさび栽培技術の習得のため、伊豆と穂高に出張することになった経緯から始める。昭和53年、私は折りからの大渴水の年の7月に突然、北九州市の西端に位置する水質試験所から山を越えた市南端の井手浦浄水場内にある試験所分室に移動した。

そこで仕事は油木、ます渕両貯水池と井手浦浄水場の水質管理である。そこで、3年近くを過ごし、その間、貯水池からの水道取水を死推移より3.5m深い最深ゲートからの取水方法を開発した。これによる効果は春から夏にかけての底層水の腐敗を防止するとともに、水道原水は藻類の影響をほとんど受けていない冷たい水の取水ができることになった。真夏の8月でも15度そこそこの水温である。しかし、すべてが良かったわけではなく、表層から取水していたときは、着水井に何万尾と群れていた20cm前後のハヤがいなくなってしまった。昼休みの40分間で弁当の残りの飯粒で百尾以上釣っていた楽しみがなくなってしまった。

せっかくこのような冷たい水を使って何かできないものだろうかと考えた末、岩魚、山女の養殖と、わさびの栽培を提案していた。

平成2年度から4年度の三年間市長部局に出向し、平成5年に古巣に戻ってきた。辞令交付の日にある課長からわさび栽培を早急に頼むぞといわれ、この日がわさび栽培のスタートとなった。

2) 準備

私は野菜の栽培は少し経験があるが、わさびの栽培方法については全くの白紙であった。ちょうど、6月の水道週間行事が市制30周年と重なり、本市最大の公園であるグリーンパークで開催された。私もこのスタッフとなって、グリーンパークに出入りする内に、みどりの相談室があることを知った。そこには野菜をはじめ、多くの植物に関する専門書があり、そこで、わさびに関する文献を数編手に入れることができた。

これによると、栽培条件は水温が最大要因であり、13度が最適水温で18度が限界水温で、

あることがわかった。井手浦の原水はこの条件を十分満たしており、望みをつないだ。

水量は毎分18リットル（1斗）で10アール（一反）作れるとあった。水量は一日10万立方メートル以上净水する净水場であり、量に関しては全く問題ない。

わさびに関する資料を収集し、出張先を伊豆半島の山奥にある静岡県立農業試験場わさび分場と長野県穂高町のわさび栽培三代目という宇留賀浜雄氏とした。両方とも僻地にあるため旅行日程の計画は同行の安田一さんに一任することとした。

3) 北九州から伊豆（10月26日、火）

9時15分小倉発の新幹線ひかりに乗車、車窓の風景を肴に缶ビールをちびりちびり飲みながら、時間の経つのを待つ。私は車窓の風景が好きである。わが国は小さい国土とはいえ、山河の変化、美しさは世界一と思う。ところが、近年、西日本一帯で赤松の枯死が目立つ。今回の旅でもそれが再確認された。最近枯れたものは赤い松葉が付いており、すぐ目につく。少し時間の経ったものは枯れ枝のみとなり、次には枝も落としてしまう。さらに、皮も落ち、白い卒塔婆のようになる。来たるべき21世紀を予告しているようで、憂うつな気持ちに落ち込む。

名古屋でこだまに乗り換え、三島に向かう。この間の楽しみはわが国有数の一級河川を見ることがある。ついつい、北九州市の母なる河川、遠賀川と比べて羨ましくなってしまう。

富士川を越えると間もなく三島に着いた。富士山のすそ野に居並ぶパルプ、製紙工場群は白い蒸気をもくもくとあげていた。三島は狩野川流域にあり、昭和33年ここに上陸し、874名の死者を出した狩野川台風で有名となった。最近では国道1号線直下から一日百万立方メートルの湧水がある柿田川で名を売っている。

三島から伊豆鉄道で今日の宿泊場所である修善寺温泉へ向かう。一般に半島の地形は中央に高地があり、海岸側の平地に町が開けるのが一般的であるが、伊豆半島はこの常識と逆なのである。電車で行けども行けども広い平地の田園風景が続くのである。くづくく>

いつから山にさしかかるかと思っているうち、社内放送で「次は修善寺、修善寺」と放送され、予想は全く裏切られてしまった。つまり、修善寺は伊豆盆地（？）の最奥に位置する平地の町なのである。そこから、バスで10分ほどで修善寺温泉に着いた。

2. 伊豆、静岡

1) 修善寺温泉

旅館に向かって歩くと、川の中に東屋風の建屋の露天風呂があり、修善寺の風情を添えた。旅館は非常に古い格調のある新井旅館であった。夕刻に着いて、夕食前に風呂に入る。また、この風呂が圧巻であった。薄暗い風呂部屋に入ると直径40センチはあるうかと思われる丸柱が数本立っており、天井は神社で見られる格子天井である、戦国武将が入った風呂もこんなものかなと思った。

風呂からあがって、夕食となつたが、これがまた驚かされてしまった。まず、お茶とメニューが出され、食前酒のざくろ酒からはじまり、仲居さんが一人つきっきりで合計13種にも及ぶ凝った懐石料理を二三品ずつもってくるのである。今時、自室で飯が食える旅館が減る一方で、未だ、このような旅館が残っていると思うと感動してしまった。

夕食後に別の風呂に入り、早く寝てしまった。翌朝、早く起き、お縁から景色をながめると、ほんの10メートル先に狩野川の支川が流れしており、縁下のレベルと川面のそれと2メートルも違わない。なんと庭の中に一級河川の支川を取り込んであるのである。大雨のときはどうなるのかと思ったが、百年以上も前に建てられ、このレベル差で狩野川台風に耐えられたであろう。上流の山々がよく整備されている証である。

昨夜女湯、今朝男湯の風呂で朝湯を浴びた。散歩に出ると散歩コースが各種用意されており、その中の30分コースを散歩することとした。ここに来て初めて知ったことであるが、修善寺は源氏滅亡の地であり、鎌倉時代の実朝の古刹などはある種の怨霊が感じられた。

2) わさび分場

7時過ぎに旅館を出て、修善寺から天城経由下田行きのバスに乗り、分場のある淨蓮の滝をめざす。この道は典型的な山岳道で、刈

り取りの終わった棚田群をぬって、バスは走った。約30分で淨蓮の滝に到着した。

バス停から歩いて1分もしないうちに分場に到着した。分場は分場長が説明、案内してくれた。わさびの世界にもバイオ技術が導入され、苗づくりも従来の株分けから、クローネ苗が生産されているとのことであった。わさび田の見学をお願いしたところ、即座に断られてしまった。淨蓮の滝観光わさび園があるというつれない回答であった。

次に今回の旅の最大の目的である苗の入手方法について伺った。すると、今まで自慢そうに話していたクローネ苗については、まだ実験段階であり、静岡県でもまだ三割くらいしか普及しておらず、まして他県の者に譲れる苗は一本もないと仰せられた。日本で唯一のわさび栽培の研究期間でわずか数百本の苗が入手できないとあれば、長野でも無理な可能性が高く、目の前が真っ暗になった。

憂うつな気持ちで分場を辞し、淨蓮の滝の見学をした。道路から標高差、約百メートル近い下にある滝壺に向かって急坂を降りた。淨蓮の滝も見事であったが。今回の目的がわさび栽培であるため、幅20メートル、長さ100メートルのわさび田を見学した。淨蓮の滝を後にし、来たコースの逆をたどって、昼過ぎに三島に着いた。

3) 三島の柿田川湧水群

柿田川は三島、沼津間の国道1号線直下から、突如湧出し、わずか2km流下して、狩野川下流で合流する川である。水源は昔に富士山に降り積もった雪がとけて、地下に浸透し、柿田川で再び地上に現れたものである。

柿田川を有名にしたものは三つあげられる。

まず第一に、日量百万立方メートルという水量であろう。この水量は人口250万人の水道使用量に匹敵する。沼津、三島付近にパルプ、製紙工場が多いのは、この水があるからこそである。

二番目は清冽な水質である。地下水ゆえ、水温は年間を通じて、ほぼ15度と一定であり、有機物も極端に少なく、大都市の水道でつくった蒸留水より少ないであろう。この水質の良さにめをつけた半導体などのハイテク産業の進出が目立つ。

<つづく>

そして、三番目がいちばんすばらしいことであるが、この清冽な流れの中の梅花藻、岸辺の草花、川岸に生えている木々などの植生に暮らす鮎などの魚類、かわせみなどの鳥類と素晴らしい生態環境が保全されている。おそらく、国道1号線からかわせみが見られるのはここだけであろう。

タクシーを降り立つと、自分でも胸の高鳴りが感じられた。国道1号線を百メートルほど下るとガードレール下に柿田川の源流が眼下に見えた。そして、下に降りると、テレビや写真どおりの湧水で踊っている砂が見えたときは心臓が止まりそうであった。ちょうど船草の花が咲き誇っており、その美しさは倍加した。下流に下っていくと、直径10mほどの大きな井戸があり、深さはわからないが、踊る砂の上に一円玉が青く光っていた。おそらく、5mか10mの深さであろう。用意してきたボリびんに紐をつけて、150mlほど採水した。今回の旅行は水と縁が深いので、水を少し採水し、簡単な分析を行うつもりであった。空の採水瓶を持っていくのも癪なので、行きは「白角」を小分けし、一日一本ずつ空にして、採水した。もちろん前日の淨蓮の滝

の水も採った。下流の方は湿原の上に木製の歩道が設置されており、満開のつり舟草の上をかわせみが飛び交っていた。

柿田川を後にして、タクシーに乗った。予定の電車まで時間があったので、駅の近くの名所を聞いたところ、樂寿園を紹介してくれた。当園は小松宮彰仁親王の別邸であった。そこで下車し、入園料三百円を払って入った。庭の広さは二万坪あり、深い森と瀟洒な邸宅それを囲む大きな泉という設定であったが、この庭園の湧水を利用した池が水位の低下により、かっての満水位から下の岩が白く変色し、台無しとなり、入場料が高いものとなってしまった。

最近、この三島湧水群は水位、湧水量の低下のみならず、発がん性のあるトリクロロエチレンなどの有機塩素系溶剤に汚染されていることが明らかにされた。人間はどこまで汚せば気がすむのであろう。無邪気に飛び交っていたかわせみは食物連鎖の頂点にたつ動物であり、あの可愛いからだの中にトリクロロエチレンが濃縮されていると思うだけで、ぞっとしてしまう。

<以下 次号につづく>

❷ 隨想 ~ 私の健康法 ~

「健康は、お金では買えない」ということを、身をもって知ったのは、40歳を過ぎた頃でした。それまで私は、人間の身体は何て丈夫にできているだろうと思い、不摂生、夜更かしをしていました。

ある時、突然腰がいたくなり、その後一年間は地獄の日々でした。死さえ考えました。全財産をなげうっても健康を取り戻したい。そのためには人間としての欲望の全てと、健

康な身体と交換してもいいとさえ思いました。身体はだいぶ元に戻り、普通の生活には支障がなくなりましたが、精神的には、まだリハビリ中といったところです。それからといふものは健康第一に考えています。

前田 秀人（佐賀・建設）

- ①早寝、早起きで規則正しい生活をする
- ②腹筋10回
- ③散歩（早朝）をする
- ④気功をする
- ⑤スポーツクラブに入る

体調が悪いと仕事に対してもパワーが出ないし、迫力に欠けます。自分の体力や精神力にあった自分自身のメニューを開発して、肉体的な若さを保とうと努力することが必要です。いわば仕事と同じくらいの優先順位を与えることです。

著名な人がいっています。「人生にとって健康は目的ではない。しかし、最初の条件である」



会員ニュース



★ 九州地方技術士センター正会員、建設部門・熊本地区 山根 武雄先生が平成7年9月3日に、また、九州地方技術士センター正会員、農業部門・長崎地区 杉本 徳博先生が平成8年2月6日ご逝去されました。謹んでおふたかたのご冥福をお祈りいたします。

☆日本技術士会（九州支部）入会

-以下敬称略、受付順-

(地区) (姓) (氏名) (技術部門) (連絡先・勤務先-下段)

福岡	正嶺 谷本 誠一	建設	〒838-01 福岡県小郡市福童701-16	☎(0942)72-7709
		勤務先	(株)エス・ピーエンジニアリング ☎(092)452-5860	FAX(092)452-5860
宮崎	山田 雅弘	農業	〒880 宮崎市丸山2-119	☎(0985)28-6560
		勤務先	(株)国土開発コンサルタント ☎(0985)24-6487	FAX(0985)27-0751
福岡	平 信雄	水道	〒815 福岡市南区三宅2-17-10	☎(092)541-7781
		勤務先	(株)吾水総合コンサルタント福岡支店 ☎(092)724-6663	FAX(092)724-7588
" "	山口 一弘	建設	〒830 福岡県久留米市上津町2203-321	☎(0942)21-6322
		勤務先	第一復建株 ☎(092)431-0724	
" "	安達 秀夫	"	〒818 福岡県筑紫野市大字紫460-8	☎(092)921-2264
		勤務先	(株)荒谷建設コンサルタント九州支社 ☎(092)441-5463	FAX(092)441-5460
" "	松岡 正章	応用理学	〒820-02 福岡県嘉穂郡篠栗町山野2146-1	☎(0948)42-4272
		勤務先	日鉄鉱コンサルタント九州支店 ☎(092)451-6467	
熊本	長崎 達也	建設	〒861-41 熊本市御幸笛田町609-2	☎(096)378-1253
		勤務先	(株)水野建設コンサルタント ☎(096)365-6565	FAX(096)367-6290

☆九州地方技術士センター入会

(地区) (姓) (氏名) (技術部門) (連絡先・勤務先-下段)

福岡	正嶺 大内英吉郎	建設	〒811-32 福岡県宗像郡福間町若木台6-16-13	☎(0940)43-4192
		勤務先	建設省北九州国道工事事務所 ☎(093)951-4331	
長崎	河田 忠	"	〒851-13 長崎県西彼杵郡高島町2706	☎(0958)96-2050
		勤務先	西部建設株長崎支店 ☎(0958)21-3439	
北九州	斎藤 和幸	化学	〒807 北九州市八幡西区楠木2-5-1	☎(093)603-8009
福岡	小池 勝也	電気電子	〒814-01 福岡市城南区宝台団地13-501	☎(092)863-4985
		勤務先	福岡市交通局電力保安係 ☎(092)891-5255	FAX(092)891-5234
北九州	篠崎 武樹	化学	〒751 山口県下関市椋野町1-16-59	☎(0832)31-3670
		勤務先	三井東圧化学(株)彦島工業所 ☎(0832)66-4322	FAX(0832)67-8535
" "	川村 靖	衛生工学	〒808 北九州市若松区青葉台西3-2-12	☎(093)742-0737
		勤務先	新日鐵(株)機械プラント事業部 ☎(093)872-6332	FAX(093)872-6431
熊本	勇 秀忠	建設	〒863 熊本県本渡市梓馬場1454-8	☎(0969)23-8879
		勤務先	共栄建設(株) ☎(0969)23-1188	FAX(0969)23-7945
北九州	秦野 徹	機械	〒802 北九州市小倉南区若園4-6-18	☎(093)962-3912
		勤務先	新日鐵(株)化学プラントタンク部 ☎(093)872-6332	FAX(093)872-6431
福岡	松永 雄二	環境	〒815 福岡市南区長住2-3-34	☎(092)561-5928
		勤務先	(株)新日本環境計測 ☎(092)561-8716	FAX(092)561-4791
佐賀	夏秋 政則	建設	〒842 佐賀県神埼郡三田川町梓田字1551-1	☎(0952)53-0796
		勤務先	(株)エヌジー技術コンサルタント ☎(0952)31-7881	

☆九州地方技術センター入会(つづき)

(地区)(姓)(氏名)(技術部門)(連絡先・勤務先-下段)

大分	眞原 千砂子	環境	〒870-11 大分市上宗方椿ヶ丘16-6	☎(0975)42-2340 勤務先 株環境研究所大分事務所 ☎(0975)42-2340 FAX(0975)41-5092
長崎	福田 光博	農業	〒850 長崎市西山町3-3-48	☎(0958)23-2378 勤務先 長崎県土地開発公社 ☎(0958)43-3422 FAX(0958)27-4266
大分	吉良 信輝	資源工学	〒879-24 大分県津久見市上青江5839	☎(0972)82-9428 勤務先 株戸高鉱業社 ☎(0972)82-6111 FAX(0972)82-3349
北九州	高橋 宏之	"	〒807 北九州市八幡西区丸尾町7-1-210	☎(093) 勤務先 飛島建設株白島作業所 ☎(093)771-3390 FAX(093)751-1552 693-9811
" "	宮本 好英	"	〒806 北九州市八幡西区東鳴水4-3-10	☎(093)641 勤務先 株間組 白島作業所 ☎(093)771-3390 FAX(093)751-1552 -9068
福岡	中山 義彦	"	〒818-01 福岡県太宰府市通古賀1-4-8-102	☎(092)921 勤務先 株間組 作業所 ☎(092)592-9870 FAX(092)592-9689 -7191
北九州	清水 清	衛生工学	〒809 福岡県中間市弥生1-13-13	☎(093)244-1282 勤務先 日鉄プラント設計(株) ☎(093)872-5458 FAX(093)884-1385
鹿児島	古賀 良知	機械	〒890 鹿児島市西田2-14-49 ドーム西田305	☎(099) 勤務先 株ハイメカ ☎(099)274-0676 FAX(099)274-6676 255-1573
福岡	木村麟太郎	農業	〒815 福岡市南区長丘5-6-21	☎(092)551-5757 勤務先 株スリーエヌ技術コンサルタント ☎(092)582-3331 FAX(092)582-3333
" "	釜下 英巳	建設	〒813 福岡市東区水谷3-20-12	☎(092)682-5723 勤務先 九州電技開発(株) ☎(092)281-5805 FAX(092)281-6811
" "	谷川 一智	"	〒811-32 福岡県宗像郡福間町光陽台4-21-11	☎(0940) 勤務先 千代田コンサルタント九州支店 ☎(092)271-5771 FAX(092)272-1549 43-0378
" "	廣中 宏毅	"	〒811-02 福岡市東区高美台2-26-3	☎(092)607-2588 勤務先 上記に同じ ☎ 上記に同じ
" "	村上 健	"	〒811-32 福岡県宗像郡福間町光陽台3-2-14	☎(0940) 勤務先 上記に同じ ☎ 上記に同じ 42-7550
" "	末廣 孝義	"	〒814-01 福岡市城南区鳥飼4-3-30-602	☎(092)822 勤務先 八千代エンジニアリング(株) ☎(092)751-1431 FAX(092)751-3038 -5012
宮崎	渡辺 康之	水道	〒880 宮崎市霧島3-27-2	☎(0985)24-6098 勤務先 株水理設計 ☎(0985)20-0252 FAX(0985)20-1652
" "	秋月 敏政	建設	〒882-04 宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折13770-24	☎(0982)72-6083 勤務先 株ピーエス九州支店 ☎(092)271-3321 FAX(092)262-2463 (0982)72-6083
福岡	勝山 修	"	〒814 福岡市西区下山門3-22-20-105	 勤務先 日本工営(株)福岡支店 ☎(092)475-7552 FAX(092)475-7089
大分	上尾 清光	農業	〒870 大分市大字賀来新川ノ5組	☎(0975)49-3807 勤務先 西日本設計測量(株) ☎(0975)43-1818 FAX(0975)43-1897
熊本	石橋 佳三	建設	〒866 熊本県八代市萩原町1-12-11	☎(0965)31-8376 勤務先 日本道路公団八代工事事務所 ☎(0965)35-7181 FAX(0965)35-7186 31-8376
福岡	浅利 公博	"	〒811-02 福岡市東区美和台3-7-12-202	☎(092)606-8575 勤務先 西日本鉄道(株)電車局建設事務所 ☎(092)761-0116 FAX(092)732-3362
沖縄	比嘉 定喜	"	〒901-22 沖縄県宜野湾市真栄原3-21-8	☎(098)898 勤務先 中央建設コンサルタント ☎(098)877-4390 FAX(098)876-2661 -6638
福岡	中禮 清孝	"	〒818-01 福岡県太宰府市梅香宛1-9-15	☎(092)952 勤務先 西日本技術開発(株) ☎(092)781-4616 FAX(092)781-9160 -0148

☆九州地方技術センター入会(つづき)

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先・勤務先-下段)
福岡	政	藤野 恭裕	水道	〒841-02 佐賀県三養基郡基山町原部385 ☎(0942)92 勤務先 福岡市水道局 ☎(092)441-1201 FAX(092)482-1376 -2675
中四国	"	石井 賢治	"	〒753 山口市楠木町1-12朝倉ユーボラス302 ☎(0839)23 勤務先 (株)エイトコンサルタント山口支店 ☎(0839)24-3277 FAX(0839)23-0823 -8603
福岡	"	森山 隆徳	建設	〒810 福岡市中央区薬院3-11-36-1002 ☎(092)781 勤務先 西日本技術開発(株) ☎(092)781-4616 FAX(092)781-9160 -4616
大分	"	佐藤 光雄	"	〒870 大分市上野丘2-1-7 ☎(0975)43-4090 勤務先 (株)佐藤組 ☎(0975)37-8044 FAX(0975)38-5232
福岡	"	林 信雄	応用理学	〒818 福岡県筑紫野市梓二日市304-1 山本ビル201 ☎ 勤務先 西日本技術開発(株) ☎(092)781-1454 FAX(092)781-6748 ☎(092)921-6849
"	"	佐々木 實	建設	〒819 福岡市西区姪浜町39-52 ☎(092)883-8930 勤務先 (株)アール・アンドエー九州事務所 ☎(092)715-1686 FAX(092)715-6734
"	"	田中 昭二	"	〒814 福岡市早良区有田6-13-28-1 ☎(092)865 勤務先 八千代エンジニアリング(株) ☎(092)751-1431 FAX(092)751-3038 -8405
"	"	梁田 信河	"	〒813 福岡市東区香椎駅東1-31-22-C101 ☎(092) 勤務先 八千代エンジニアリング(株) ☎(092)751-1431 FAX(092)751-3038 673-3427
"	"	森本 侃	織維	〒277 千葉県柏市294-1 興人柏寮 ☎(0471)34-6759 勤務先 (株)興人 ☎(03)3504-3135 FAX(03)3504-3134
北九州	"	本山 彰彦	建設	〒800-02 北九州市小倉南区中曾根東1-6-14
熊本	"	高橋 孝誠	機械	〒861-21 熊本市沼山津4-3-18 ☎(096)368-2278 勤務先 熊本県工業技術センター ☎(096)368-2101 FAX(096)369-1938
長崎	"	野口 文雄	建設	〒854 長崎県諫早市幸町32-18 ☎(0957)24-4132 勤務先 長崎県田平土木事務所 ☎(0950)57-0562
福岡	"	大櫃 宣弘	水道	〒819 福岡市西区生松台1-4-2 ☎(092)812-3014 勤務先 八千代エンジニアリング(株) ☎(092)751-1431 FAX(092)751-3038
北九州	"	金谷 利憲	"	〒811-42 福岡県遠賀郡岡垣町山田1072-88 ☎(093)282 勤務先 (株)安川電機 ☎(093)645-8852 FAX(093)631-8440 -2190
福岡	"	岩本 政志	建設	〒819 福岡市西区下山門4-13-48-201 ☎(092)882-1091 勤務先 (株)竹中土木九州支店 ☎(092)711-1831 FAX(092)771-7940
"	"	中尾 好幸	"	〒838-01 福岡県小郡市三国が岡7-8 ☎(0942)75-1684 勤務先 (株)長大 福岡支店 ☎(092)472-3952 FAX(092)413-6630
北九州	"	岸川 直人	機械	〒803 北九州市小倉北区大手町14-5-307 ☎(093)583 勤務先 日鉄プラント設計(株) ☎(093)872-5465 FAX(093)884-1385 -1081
宮崎	"	河野 敏郎	建設	〒889-16 宮崎県宮崎郡清武町大字木原601-1-103 ☎(0985) 勤務先 (株)シンクタンク宮崎 ☎(0985)22-0087 FAX(0985)22-0075 85-9839
熊本	"	阪口 信夫	"	〒865 熊本県玉名市六田31-5 ☎(0968)74-1559 勤務先 玉名市建設部都市計画課 ☎(0968)75-1122 FAX(0968)75-1166
長崎	"	岩橋 英夫	水道	〒852 長崎市辻町587-2-402 ☎(0958)42-2753 勤務先 三菱重工(株)長崎造船所 ☎(0958)28-6293 FAX(0958)28-6260
福岡	"	中野 剛一	建設	〒813 福岡市東区青葉3-22-2 ☎(092)691-1292 勤務先 (株)建設技術研究所 ☎(092)741-6226
"	"	太田潤一郎	"	〒811-34 福岡県宗像市梓田熊1038-6 ☎(0940)37-3416 勤務先 (株)錢高組 九州支店 ☎(092)291-3939 FAX(092)281-9832

☆(社)日本技術士会(九州支部)退会

(地区)(区分)(氏名)(技術部門)

福岡正嶺 藤井 隆 建設
〃 " 松本 泰輔 "

☆会員勤務先(住所)および連絡先等変更

1. 金光 英雄 (建設)

勤務先 〒812 福岡市博多区博多駅南
3-5-28 第一復建㈱
TEL(092)431-0724 FAX(092)461-2288

2. 小宮 春夫 (建設)

勤務先 〒812 福岡市博多区博多駅南
1-6-22 メナード福岡ビル内
株橋梁コンサルタント福岡支店
TEL(092)461-2011 FAX(092)461-2012

◇会誌“技術士”最近号の主要目次

☆1月号

- ・卷頭言
大深度地下利用について／野澤 太三
- ・私の技術士業務 (56)
私の仕事と技術 ／渡辺 洋

☆2月号

- ・卷頭言
政府開発援助の質向上に
技術士の活躍を！ ／山根亮太郎
- ・提言 (32)
技術士を目指した頃を思い起こそう
／秋山 純一
- ・研修のページ (60)
21世紀に向けての品質概念の変遷
／本田 尚士

☆3月号

- ・卷頭言
公共工事と資格者制度 ／菊川 滋
- ・私の技術士業務 (57)
セメント工場の品質管理の経験
／佐藤 長光
- ・研修のページ (61)
農薬におけるアジュバントの活用
／川島 和夫

☆九州地方技術士センター退会

(地区)(区分)(氏名)(技術部門)

長崎正嶺 杉本 徳博 農業
大分正嶺 阿部 洋祐 建設
福岡 " 山本 正勝 衛生工学

3. 久家 悟 (建設)

勤務先 〒810 福岡市中央区天神1-8-1
福岡市土木局建設部道路建設第2課
TEL(092)733-5505

4. 社名変更(鹿児島)

長島 英起, 本田 信孝(建設)
池田 富男, 竹崎 徳男(応用理学)
新社名 (株)日本地下技術
旧社名 (株)西日本地下工業

-受付順、敬称略- <会員ニュースおわり>

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会
員会社の紹介など、技術的なことは勿論
会員の受賞などのニュースもお願いしま
す。積極的な皆さんの投稿をお待ちして
おります。(20字×10行=200字詰め原稿用紙
2~3枚程度ー用紙は事務局にてを目安
に、支部事務局宛てご送付下さい。)

編集後記

- ・”技術士だより”も7年目に。“継続は力
なり”ということで、何とか続けてきた。
途中で一度見直そうと、費用のことも考
えながら表紙の2色刷りなどをしてきた。
- ・ここらでもう一度、内容など見直す時期に
来たようで、編集委員で検討の予定。皆さ
んの積極的なご意見を是非頂戴したい。
- ・いつの間にか陽も和やみ、やがて桜の季節
春の高校選抜も始まるが、野球、サッカー
なども、楽しめる時節になりそう。(小)

発行：(社)日本技術士会・九州支部

九州地方技術士センター

〒810 福岡市中央区大名1丁目

12-61 新天ビル402

（092）771-9534

FAX(092)731-8274

編集：九州支部・総務委員会